

元の紙幣

- 1) 金と元の紙幣は【1: 】(写真による出題に備え確認せよ)である。
「交鈔」はフビライ即位の年(1260)に正式に元の基本貨幣とされた。銀との交換が保証されている兌換紙幣であったため広く流通し、時には西アジアでも使われた。使用されなくなった銅銭は日本などに輸出された。名称は宋の紙幣「交子」に由来。「交鈔」には偽札を造る者は死刑に処すと印刷してあった。
- 2) 南宋を併合(1279)した際、その地域に流通させるため大幅に増発され、14世紀以降も濫発された。そのために「経済の混乱を招いた」とよく書いてあるが、塩の専売制度と結びつき、塩は「交鈔」でしか買えなかったため、銀の兌換準備が不十分でも塩と兌換できるので、濫発が続いたにもかかわらず、さほどの経済の混乱は起きなかったと思われる。しかし、受験的には「南宋併合以降濫発され経済の混乱を招いた」と書いておこう。

元の文化

元は無用の統制を加えなかったため、モンゴル人統治下でありながら、宋代にめばえた庶民文化が開花した！科挙廃止で出世の道を閉ざされた士大夫層が創作に加わったので、高水準の作品が多数残されたとされ、たしかに士大夫層は大活躍したが、実際は士大夫層は様々な方法で登用され全く出世できなかったわけではない。科挙中断は1313年まで。

- 1) 元代の儒学
科挙が中断されていたと言っても儒学が冷遇されていた訳ではない。フビライに仕えた許衡(きょこう、1209-1281)は、元の朝廷の中国化(漢化)に協力しつつ、儒学(朱子学)の官学化を推進した。
- 2) 【2: 】というジャンルが都市の庶民の間で流行 古典演劇であり、一種の歌劇。台詞も歌詞も口語。
『【3: 】』せいそうき 親が許さぬ恋愛物語(封建的束縛に抗した自由な恋愛)
『漢宮秋』かんきゅうしゅう 匈奴に嫁いだ王昭君(BC1世紀に実在)の悲劇を劇化したもの。
『【4: 】』びわき 夫婦愛もの。出世し豊かな夫を待つ貧しい妻。
「漢文・唐詩・宋詞・元曲」…それぞれの時代に最も隆盛だった文芸のジャンルを並べた表現。
なお、古典の授業などで時に絶句や律詩を「漢詩」と呼ぶ例もあるが、それは唐代に完成したので、これらの詩は中国では「唐詩」と呼んでいる。
- 3) 小説…長編小説。少なくとも①②は民間に行われていた「講談」の内容を整理したものが起源で、元代に完成された。ただし、普及は元末から明初であり、元、明のいずれに分類するかで異説がある。
①『【5: 】』 梁山泊に集う108人の正義の豪傑たち。施耐庵(元)がまとめ羅貫中※が明代に完成させた。北宋の徽宗期に実際に起こった反乱を下敷きになっている。「滸」=「ほとり」。「水のほとりの物語」という意味(梁山泊は梁山の麓の沢地にあった)。明の中期に呉承恩が完成させたとする説もある。
②『【6: 】』 後漢末期から三国時代の英雄・豪傑の物語(演義=歴史物語)で蜀を正統・善玉とする講談の潮流を維持。羅貫中※が大成。出版は明代。西晋の陳寿が記した正史『三国志』は魏を正統とする簡潔な正史である。区別せよ。
③『西遊記』さいゆうき 玄奘の旅を題材に創作。魑魅魍魎 ちみもうりょうの跋扈 ばっこする西域が舞台。
※羅貫中 かんちゅう 生没年不明は元末明初の作家。施耐庵(元)の弟子とされるが詳細は全く不明の謎の人物。①②の編者と伝えられるが、確認できるのは数編だけで他は疑わしい。出題文中によく見かける。
「四大奇書」しだいきしょとは、中国で元代から明代にかけて俗語体で書かれた4つの長編小説のキャッチフレーズ。『水滸伝』、『三国志演義』、『西遊記』、『金瓶梅』の4作品である。しかし、清中期以降、『金瓶梅』を削除して『紅樓夢』を加え、「四大名著」と呼ぶようになった。現在の中国では、「四大奇書」よりこちらの方が一般的。
- 4) 書画 趙孟頫と倪瓚はワープロにない文字を含む。
書 趙孟頫 ちょうもうふ…王羲之(東晋)以来の伝統を受け継ぐ
文人画 黄公望、倪瓚 げいさん、呉鎮 …山水画 この4人は元末四大家 げんまつしたいかと呼ばれ、
 王蒙…南宋画の大成者 それぞれ個性的な山水画様式を確立した
 14世紀(元代)の「専門画家ではない文人によって制作される山水画(文人画)こそが制作者の内面を表現しているとされ、のちに絶賛されるようになった。
物語の挿絵として『【7: 】』が流行…?
大元ウルスからイル=ハン国に精密な中国絵画が伝えられ発展途中の細密画(ミニチュア)に大きな影響を与え、金彩や多色濃彩を用いた精密な技法で写本の挿絵が盛んに描かれた。本来ヨーロッパの技法による細密画を意味するフランス語の「ミニチュア」という表記をイスラーム写本絵画に使用するのは好ましくないとする説もある。
- 5) 元代を代表する陶磁器・【8: 】そめつけは主要な輸出品のひとつだった。
白磁にコバルトブルーの絵付けをした焼き物。コバルトはイスラーム世界からもたらされた。

活発な東西交流

各ハン国は、商業保護政策をとり、治安の確保、通商路の安全の確保につとめた。商品はもちろん、人間の交流も進んだ。以下はそのほんの一例である。

- 1) 十字軍の時期だった西ヨーロッパは、イスラーム地域を征服したモンゴル帝国に関心を抱いた。
①【9: 】Plano Carpini 伊 1182?-1252 フランチェスコ派修道士 ローマ教皇インノケンティウス4世の使者(1245年派遣)としてカラコルムに赴き、到着直後の1246年8月24日、グユクの即位式のクリルタイに列席した。リーグニッツの戦いの法的決着はついておらず、ローマ教皇の親書を手渡しして和睦交渉を行なったが、グユクは和睦ではなく教皇をはじめとする西欧諸国の臣従を望んだため、和睦交渉は決裂した。
謁見後に手渡されたペルシア語による1246年(ヒジュラ暦644年)発の勅書が1920年にヴァチカン図書館で発見され現存する。

